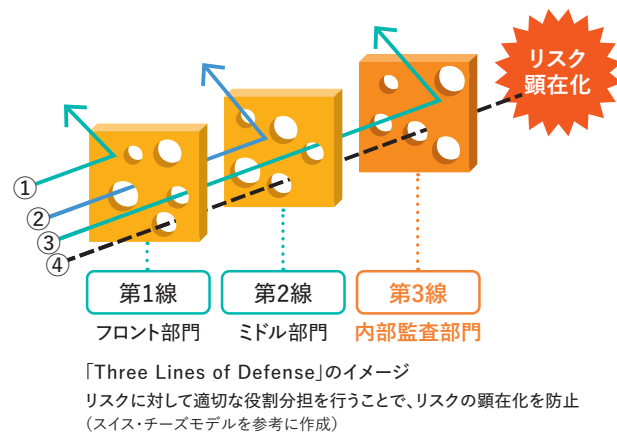


内部監査体制

内部監査とは

組織は3つの防御ラインで守られています。収益獲得のためリスクをとり、かつリスクを管理する責任がある第1線（フロント部門）、リスクを評価・管理するため方針や手続きを策定する第2線（ミドル部門）、第1,2線の業務の適切性を独立した立場から評価し、その有効性を保証する第3線（内部監査部門）という3つのラインです。組織が業務の適切性・健全性を確保し、また経営理念の実現に向けた経営戦略の策定と着実な実行を行うためには、内部監査を含めたガバナンスが有効に機能していることが重要とされています。内部環境・外部環境の変化に応じた内部監査の高度化が求められています。

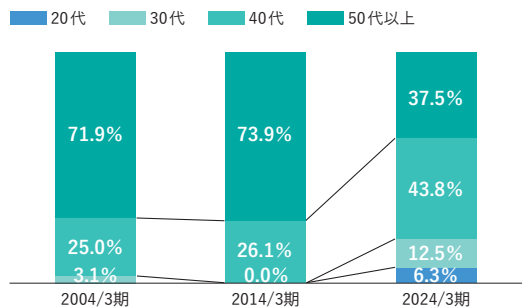


監査部の「これまで」と「現在」

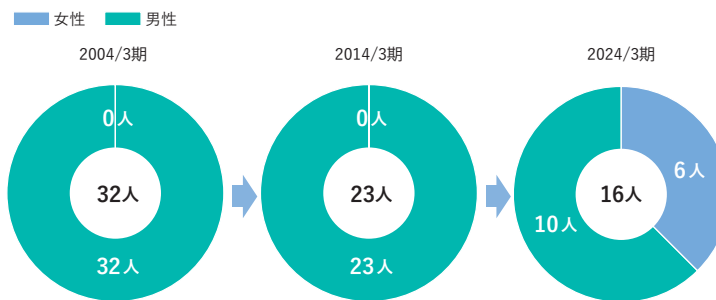
かつての役割は事務不備監査として、業務が決められたルールに則って行われているかをチェックすることでした。事務不備や規定違反等の発見による牽制が役割で、対話は重視されておらず、データの活用も限定的でした。人員は主に出向待機者が配属されていたため、1年以内に出向する者が大半で、監査経験やスキルが蓄積されにくい環境でした。現在は事務不備監査からリスクベース監査に移行しています。リスクベース監査では、リスクアセスメント（※）によりリスクが高い施策や業務を監査対象として選定し、その内部統制プロセスの有効性を検証します。リアルでの面談に加え、オンライン面談を活用したインタビューを通じて、被監査部署と積極的にコミュニケーションを図っています。また女性や若手人材が増え、2022年には新入社員も配属されるなど、人材の多様化が一層すすんでいます。

リスクアセスメント（※）
リスク（企業の目標達成に影響を与える事象発生の可能性）について、その影響の大きさと発生可能性を識別・測定するプロセス。監査部ではリスクアセスメントのために、業務に関する情報を日々調査・収集しています。

年代別構成比の推移



男女構成比の推移

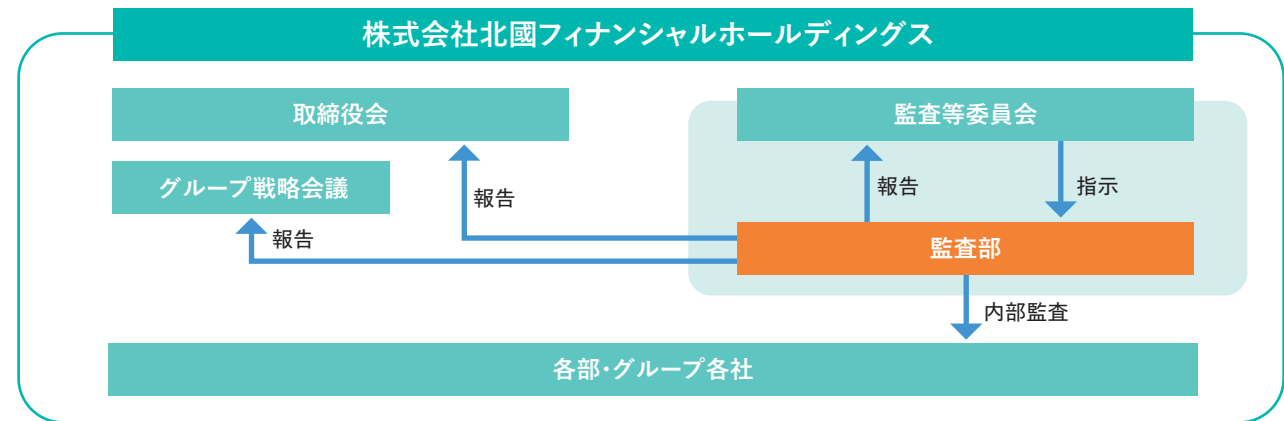


効率的な監査

当社では20年以上にわたり全社的なBPR・DXを進めてきました。その結果、監査に必要なほとんどの資料をリモートでのモニタリングで確認できるようになりました。それにより、実地監査に必要な監査員数や監査日数が大幅に効率化できています。

監査部の指揮系統・役割

監査部は監査等委員会直属の組織です。監査等委員会の承認を受け、取締役会に報告した内部監査方針に基づき、内部監査を実施します。監査結果は、監査等委員会および取締役会に報告するほか、当社全社員がアクセス可能なグループ戦略会議でも報告しています。コーポレートガバナンス・コードで求められているデュアルレポートラインはもちろん、トリプルレポートラインと言えます。

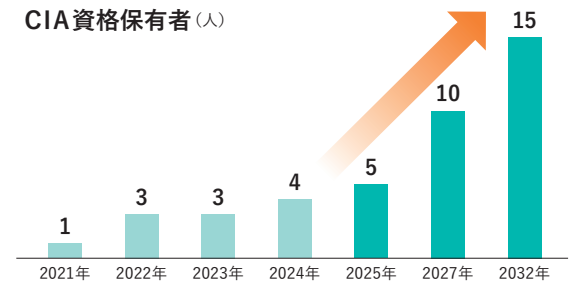


監査部の「これから」

「Auditを地域に」をテーマとして掲げ、経営と地域に役立ち、内外のステークホルダーから信頼される存在になるべく、内部監査の高度化に取り組んでいます。FHDグループ全社のみならず、取引先や他金融機関の監査・内部統制コンサルティングができる体制を整備するため、中長期で監査部の目指す姿を定義しています。これらの取組みにより、トップレベルの監査部、経営に資する監査、信頼されるアドバイザーになることを目標としています。

プロフェッショナル・コア人材の育成・配置

監査部員の目指す姿として、監査業務の豊富な経験と深い知識を兼ね備え、どのような企業においてもプロの監査人として通用する人材、他社を監査できるレベルの人材を掲げています。人材育成として、CIA（公認内部監査人）の資格取得、専門性の高い分野への監査スキル習得、取引先の監査・内部統制コンサルティングへの参画にも取り組んでいます。



監査品質の向上

監査部は他部署から監査されることがないため、監査品質の向上を目的として、IIA（※）の国際基準に則った品質評価を行っています。品質評価は自己評価である内部評価と、外部適格者による外部評価に分けられ、当社では内部評価は毎年、外部評価は5年に1度実施しています。品質評価を通じて、IIAの国際基準とのギャップを認識し、監査品質の向上に向けPDCAを回しています。

IIA（※）：内部監査人協会（The Institute of Internal Auditors）
内部監査専門職に関する提唱者、教育機関、ならびに規準、ガイダンス及び各種認定資格の提供者として、世界で最も広く認識されている協会。1941年に設立され、2024年7月現在、世界170以上の国と地域に200,000人以上の会員を有している。

監査業務の効率化・DX

飛躍的進歩を遂げている生成AIの活用や、データサイエンティストによるデータ分析を用いたリスクアセスメントを取り入れるなど、業務の効率化に取り組んでいます。今後も外部知見を活用しつつ、監査の効率化・DXの実現に取り組めます。

